

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
1	11.21(日)	天神山	発言者A	<p>意見も交えて質問する。</p> <p>10ヶ月ほど前、天神山小学校がなくなる計画（案）をみて大変驚き、あり得ない話だと思った。月日がたち、本日説明を聞いても気持ちは変わらない。</p> <p>天神山小学校は天神山町内にある学校のため、通学距離が近く、地下道もあるなど、児童にとって非常に安全。3丁目からも歩道を通って通学できる。岸和田市内で最も安全な通学路ではないか。</p> <p>小規模の良さは、保護者アンケートをみてもよくわかる。その学校をなぜなくさなければならぬのか、理解できない。私の知る限り、天神山小学校をなくしてほしいと願う人は一人もいない。</p> <p>4月に天神山校区の全世帯を対象にアンケート調査を実施したところ、小学校を残してほしいと回答した割合が約87%。相当な高数値である。良い学校だから残してほしい、その気持ちをどうしてわかってもらえないのか。</p> <p>質問として、保護者、児童生徒、地域住民の声をどのように聞いてきたのか。</p> <p>また、なぜ学校をなくさなければならないのか。</p>	<p>適正規模・適正配置の基本方針を策定した後、市民説明会を実施した際や、実施計画（案）をホームページに掲載した際にも、地域の皆様から様々なご意見をお伺いした。</p> <p>その中で、天神山小学校は良い学校であり、このまま存続してほしいという声もいただいている。地域の皆様が小学校を大切に考え、地域子どもたちを見守ってきていただいたことは十分に認識している。存続を願うご意見も、当然のことだと思う。</p> <p>一方、今後少子化が進む中、今より更に学校の小規模化が進展していく状況が見込まれている。</p> <p>小規模校にも良さがあることは認識しているが、小規模であるが故の課題が生じているのも事実である。</p> <p>文科省において、子どもたちが将来にわたってたくましく生き抜く力を育むため、主体的・対話的で深い学びをめざしている中、小規模校においては、学習形態に制限が生じてしまう。</p> <p>そのような状況のまま、責任を持って適した公教育を提供していくことは困難であり、公教育を担う教育委員会として、一定の集団規模が確保された教育環境を整備していく必要があると考えている。</p> <p>地域の皆様の中には、それでも小規模校の方が望ましい、というお考えの方も当然いらっしゃると思う。これについては、市民から選任を受けた市長、そして議会の同意を得て市長から任命を受けた教育長が、岸和田市の将来を担う子どもたちのことを考え、責任を持って判断させていただくことになるが、最終的に、どちらを選択していくことになるのかは議会の決定によると考えている。</p> <p>なお、安全安心な通学環境の確保は最優先事項だと考えており、地域の皆様のご意見を伺いながら、しっかりと対応していく。</p>
2	11.21(日)	天神山	発言者B	<p>質問の前に上から目線で申し訳ないが、プレゼンテーションが長すぎる。適正化については27分、小中一貫教育については10分。後者については、昨日開催の浜中央校区地域説明会で質問があった内容に係る追加発言もあり、昨日9分のものが10分になるのは仕方ないし、許容範囲だと思うが、27分ということは民間では考えられない。</p> <p>大学の卒論発表会ではおおよそ7～8分。15,000字の卒論だとA4用紙40枚、今回はA4用紙29枚なので、7分程度でまとめられると思う。ぜひ次回の天神山校区地域説明会では短くしていただきたい。</p>	<p>教育委員会として、動画配信による計画（案）の説明を視聴いただいた後にお越しの方もいる一方、本日初めて説明を聞かれる方もいるため、詳しい説明が必要と判断し、実施している。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
3	11.21(日)	天神山	発言者B	<p>以前、この計画（案）をどのような背景で出したのか質問したところ、文書で回答いただき、国の公立小・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き及び、岸和田市の審議会による令和元年10月の答申を踏まえ、適正化（案）を策定した旨記載されている。</p> <p>答申においては、確かに適正規模は12～18学級とある。1点異なるのは、適正人数は300人ないし600人とある。本日の資料（グラフ）では350人のところに線を引いており、50人増やしていることについてはおかしいと思うが。</p> <p>また学級編制については実人数で25～35人が望ましいと記載がある。答申を踏まえ、ということなので、無視してもよいものではあるが、なぜ学校編制については答申を踏まえたのに、学級編制については考慮していないのか。</p> <p>今回の資料はすべて35人学級編制の前提で作られた資料であり、実人数ではない。岸和田市教職員組合によれば、実人数で学級編制すると、59学級増加すると聞いている。天神山小学校で増加するかはわからないが、なぜ35人学級に拘っているのかがわからない。文科省は30人学級をめざすとしている。</p>	<p>学校あたりの人数である「学校規模」と、学級あたりの人数である「学級規模」の考え方があって、今回の適正規模・適正配置の取組については、子どもたちのより良い教育環境の充実のために、前者の、学校全体の児童生徒数について、一定の規模を確保するための取組である。</p> <p>学級規模の少人数化は、自治体が独自で判断するのではなく、義務教育として、国が一律に判断すべきだと考えている。引き続き、国や府に少人数学級の導入を要望していく。</p> <p>なお、今後、国による35人学級が順次導入され、令和7年度には小学校全学年が35人学級編制となる。</p>
4	11.21(日)	天神山	発言者B	<p>適正化の基本方針については、国が定めた学級規模の標準や、審議会答申等を踏まえ、岸和田市の小・中学校の適正な学校規模を次のとおりとする、とあるが、小中一貫校の設置に関する指針はない。なのに、なぜ施設一体型の（仮称）葛城小中一貫校、（仮称）山滝小中一貫校を設置するのか。</p> <p>小中一貫教育の指針はあるが、小中一貫校の指針がない中、小中一貫校を設置しようとするについて、モデル校だと聞いた記憶はあるが、我々は小中一貫校を求めている。なぜ小中一貫校を2校区に設置するのか教えてほしい。</p>	<p>小中一貫教育基本方針を策定し、小中一貫教育を推進することは、教育委員会として決定した事項である。</p> <p>これまでの小学校と中学校の連携から、さらに発展した形で、児童生徒の交流、教職員相互の連携を取って、義務教育9年間を通じた指導を行っていく。</p> <p>岸和田市では学校を新設できるような大きな敷地の確保が難しい中ではあるが、小中一貫教育をより効果的に進めるにあたって、小・中学校が遠く離れているよりも、同じ敷地で教育を受けることが望ましいものと考えている。</p> <p>なお、適正化の方策を総合的に検討した結果、（仮称）葛城小中一貫校、（仮称）山滝小中一貫校については、施設一体型での整備の方が、教育環境上望ましいという判断のもと、今回の計画（案）をお示ししたところ。</p>
5	11.21(日)	天神山	発言者B	<p>小中一貫教育基本方針の6ページの下部に、学校運営について、義務教育学校では一人の校長、一つの教員組織とあり、これはその通りだが、小中一貫型小・中学校ではそれぞれの学校に校長、教員組織とある。そういった形態の学校もあるが、2つの学校に、1人の校長という形態の学校もある。校長がそれぞれに存在することは悪いことではないが、小規模の学校では1人の校長での運営も可能かと思う。訂正を願う。</p>	<p>適正規模・適正配置の取組により、岸和田市に小中一貫校が設置された場合の、管理職教員の配置について、現段階では小・中学校が別々に設置されている中で、施設一体型義務教育学校であれば校長が1人、などといった具体的な配置については、様々な可能性を検討していきたい。</p> <p>小中連携は岸和田市に限らず、必ずなければならないもの。これまで、学力や生徒指導に関して、小・中学校の教員が連携して対応してきた。</p> <p>小中連携と小中一貫の違いについては、「めざす子ども像」を中学校区でしっかり定めようとする部分になる。教員や子どもたちへの負担ができるだけないように、今できること、今実施していること、それらをどのように小中一貫につなげ、発展させていけるかについて、現在、小中一貫教育推進会議で議論しているところ。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
6	11.21(日)	天神山	発言者B	<p>現在、小中一貫教育推進会議でどのような小中一貫教育を実施するのか検討している最中なのに、なぜ小中一貫校を設置するという計画が出てくるのか。</p>	<p>小中一貫教育基本方針をもとに、市として小中一貫教育を進めるということ、また、各学校の規模や配置バランスを踏まえつつ、児童生徒の通学距離、地域コミュニティ等を総合的に鑑み、今回の計画（案）をお示した。</p> <p>葛城校区と山滝校区は、小学校と中学校を、小規模のまま、別々に設置するよりも、同じ敷地で小中一貫校として設置するほうが、より良い教育の観点から望ましいと考えている。</p>
7	11.21(日)	天神山	発言者B	<p>学級編制が35人学級だから8学級以下の適正化対象校になるのであって、例えば修斉小学校や山直南小学校のように、25人学級なら8学級以下の規模にならない学校もある。天神山小学校はそれでも8学級以下の規模になる可能性が高いが。</p> <p>学級編制を考えた上で、学校の統廃合を考えるべきだと思うが、いかがか。</p>	<p>審議会答申において、学級あたり25～35人が望ましいとあるのは、35人学級編制を踏まえた上での、「実人数」ということである。</p> <p>実人数での学級編制について、仮に1学年40人であれば、20人学級で2クラス、50人であれば、25人学級の2クラスということになる。審議会で行われていたのは、あくまでも最大35人という学級編制基準において、学級を運営する実人数は25～35人が望ましい、といった議論である。</p>
8	11.21(日)	天神山	発言者C	<p>学校跡地のあり方について懸念している。地域の方々の意見を踏まえ、幅広い視点から利活用を検討したい、と資料に記載があるが、役人の答弁だと感じる。</p> <p>大阪府内各地で、学校再編や小中一貫校設置計画が立ち上がる中、その地域の知人に聞いたところ、枚方市や高槻市では跡地は売却するとされている。</p> <p>天神山小学校の立地は、住宅地として良いので、売却といったことを考えているのでは、と気にしている。</p> <p>また、東葛城小学校や修斉小学校は、教育委員会ではなく、自分たちの力で校舎を建て、学校を開設した経緯がある。これを同じように売却という考えでは困るので、この場ではっきりと売却しない旨明言いただきたい。</p>	<p>学校は、教育の場であると同時に、地域コミュニティの場であり、防災面では避難所にもなるなど、有効に活用されてきた。そういったことを含め、地域の意向をまったく無視し、一方的に跡地を売却するということは、教育委員会として考えていない。</p> <p>今後、仮に計画が進んだ場合の跡地活用については、地域の皆様のご意見を十分に伺い、より良い方向性を定めていく。</p> <p>一方で、市民全体の貴重な財産でもある学校の跡地については、市全体で方向性を定めていく必要があるため、売却する・しないということは、現状約束できることではない。</p>
9	11.21(日)	天神山	発言者C	<p>岸和田市における教育課題は、小規模化や小中一貫ではないのでは、と考えている。</p> <p>教育委員会の評価委員会を2回傍聴し、資料を確認したところ、いじめの件数が令和元年で小・中合わせて148件だったものが、令和2年には627件になっていた。4.2倍に増加しており、中学校においては5倍に増加している。</p> <p>委員からも、解消率についての質問があった。解消率は90%とあるが、これは高い数字と思わない。残る10%はまだいじめの状況が未解決だという深刻な状況である。</p> <p>暴力の件数も、中学校では令和元年から令和2年で3倍に増加している。</p> <p>令和2年は、コロナウイルスの影響で学校の休校があったにもかかわらず増加している。また不登校についても、令和元年から令和2年で少しではあるが増加している。</p> <p>安心安全な学校とは言うが、こういった課題がある中、制度を変えるのではなく、まず子どもたちが安心安全な学校に通えるような教育をめざすべき。</p>	<p>いじめや問題行動の件数は、大きな課題であると認識している。</p> <p>岸和田市の学力が、全国平均を10～15ポイント下回るということで、学力向上に向けた課題もある一方、いじめや不登校といったように、様々な課題を抱えている状況。</p> <p>いじめの件数が急増した理由としては、教員が、積極的にいじめ事象の認知を高め、積極的に教育委員会へ報告するという方針にもよるが、それだけ母数は多かったということ。</p> <p>教育委員会の努力が足りないというご指摘については、謙虚に受け止め、引き続き、教育課題解決に向けて取り組んでいく。</p> <p>その一方で、子どもたちのより良い教育環境を整えるため、適正規模・適正配置の取組についても並行して取り組んでいくべきと考えている。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
10	11.21(日)	天神山	発言者D	<p>冒頭、説明が長いという指摘があったが、自分は動画配信を知らなかったし、この計画（案）が出てからずっと不安に思っていたので、説明が長いとは思わなかった。</p> <p>保護者として、天神山小学校は児童数が少なく、適正じゃないと言われているような気がして、子どもが入学するときに不安もあった。しかし、入学後は、小規模だからこそ、教員が児童みんなを知っていて、気にかけてもらっていて、良い環境だと思っている。</p> <p>人間関係で何かがあった際に、クラス替えがないことの不安もあったが、今思えば、クラス替えができることが本当に解決なのか、とも思う。ただ、今2年生で、まだこれからのので、もっと上の学年になったときに、小規模による心配ごとがあれば、他の保護者の方からぜひ教えてほしい。</p> <p>一方、児童数が多い学校のことが気になる。予算がつくならば、先に大規模校において、1クラスの人数を少なくする等、予算を投入したほうがいいのでは、とも思う。</p> <p>なぜかと言えば、通信制高校で働く中、小・中学生時代に学校へ行けなかった子どもや、通学しても教室に入れなかった子どもの多くが、大規模な学校を卒業した子どもであり、小規模校の卒業生は少ない。それは単に人数によると思うかもしれないが、実感としてはそうではないと感じている。大規模校でよかったらかしにされていた子どもも多いのではないか。</p> <p>大規模校の子どもたちは、今後人数が減少していくので、それを待っているようにも思うが、まずはそちらに予算を投入した方がいいのではないか。</p> <p>また、小規模校では切磋琢磨が難しい等あったが、比較的大きい学校での成功例等も教えてほしい。</p>	<p>小規模校には、小規模だからこそその良さもあると認識している。教員が、学級内の児童生徒だけでなく、学校全体の児童生徒と、互いの顔が見えやすい関係でいることや、きめ細かな教育が可能といったことが挙げられる。</p> <p>子どもたちは、小規模の集団でずっと暮らしていくのではなく、小・中学校から高校、大学、そしてグローバル化する社会に出ていく。そういった中で生き抜く力を育むことが必要であり、そのためには、小・中学校のうちから、一定の集団規模で過ごすことが、多様な考えに触れ、社会性を培う上で重要なことだと考えている。</p> <p>また、基本方針にて適正化が必要な大規模校を25学級以上の学校規模と定めているが、対象となる学校は現在の岸和田市には存在しない。</p> <p>一部、適正な学校規模とする12～18学級を上回る学校もあるが、計画（案）における通学区域の見直しによって、そういった学校の規模を、適正規模に近づけることも示している。</p> <p>また、不登校については、どの学校でも起こり得る事象である。子どもたちに対するカウンセリング等の丁寧な対応に努めていく。</p> <p>大規模校における切磋琢磨の例として、学級対抗の合唱コンクールといった、学校行事で競い合いながら、力をつけていくということがある。大規模校においても、小規模校と同じく、利点と課題の両面が存在すると認識している。</p>
11	11.21(日)	天神山	発言者E	<p>小中一貫教育と小中一貫校の問題、葛城中学校の校舎老朽化問題、クラブ数が少なくなっているという問題を、小学校の問題と混同しているように思う。</p> <p>小規模な小学校のメリットはたくさんある。例えば、仕事で昨年10月に訪問した石垣島の小学校は児童数が非常に少ないが、きめ細かな教育で、学力が沖縄本島と比べて非常に高いと、どの方も自信を持っていた。</p> <p>また10年ほど前には同じく宮古島を訪問したが、そこでも、児童数が非常に少なくなり、普通ならば廃校になるところを、学校を存続させ、手厚い指導を実施しており、やはり学力は高いということであった。</p> <p>データの、少人数での教育がいけなくて、大人数で切磋琢磨することが望ましい、というものがあるのかどうか。</p> <p>また、日本は長年6-3-3制で各発達段階に応じて実施してきたところだが、小中一貫教育における、学力としてのメリットが数字として存在するのか。</p>	<p>岸和田市における、学校規模の大小による学力テストの結果について、一概に大規模校では低い、小規模校では高い、といった傾向はみられない。</p> <p>学力向上については、市全体の小・中学校における課題であり、今後も引き続き、向上に向けて取り組んでいく。</p> <p>小中一貫校と、小中一貫教育は異なる。従来、欠かさず取り組んできた小中連携教育を発展させ、小中一貫教育につなげていくことは大切だということを取りまとめたものが、小中一貫教育基本方針である。</p> <p>中学校の部活動について、現状で様々な課題があることから、うまく運営していくにはどうすればいいのか、といった点も現在検討しているところ。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
12	11.21(日)	天神山	発言者E	<p>天神山小学校から葛城中学校まで約1.5kmの距離だというのが、他の小学校でも1.5kmの通学について、どこの小学校で、どれくらいの人数が毎日そのような距離を歩いているのか。</p> <p>天神山小学校の児童は、もし現在の葛城中学校まで通学するとすれば、ほとんどの児童が1.5km程度の通学距離になってしまうと思うが。</p> <p>もし何かがあって、スクールバスでなく、徒歩で通学する、遅れて通学するということに、個々の対応が可能なかどうか。現在の天神山小学校では、そのあたりは手厚い対応をさせていただいている。</p>	<p>現状で1.5km以上の距離を通学している児童がいる小学校は、9校存在する。</p> <p>岸和田市内では、一部山間部を除き、おおよその児童が2km以内の距離で通学している。国においては、小学校は4km以内、中学校は6km以内という通学距離の基準があるが、これを一律に適用するのではなく、地域の皆様のご意見を伺いながら、(仮称)学校開校準備委員会において、スクールバスに乗り遅れた場合の具体的な対応を含む、通学上の様々な事項を議論していきたい。</p>
13	11.21(日)	天神山	発言者F	<p>本日、中1ギャップについて説明があり、定例教育委員会会議を傍聴した際には、教育長もその場で同様の旨を発言していた。</p> <p>長い間、中学校で教員として勤めていたが、中1ギャップをあまり感じたことがない。小学校から中学校に進学する際には、希望に胸を膨らませて、教科別の教員に変わることや、部活動、勉強を頑張ろう、といったことなど、新しい気持ちで進学してくる。</p> <p>中1ギャップのような事象がまったくないとは言わないが、取り立てて言うようなことでもないと考えている。</p>	<p>平成27年に、国立教育政策研究所が中1ギャップに関するリーフレットを発出しているが、それ以降も文科省では「中1ギャップ」という用語を継続して使用している状況。</p> <p>中学校現場において、中1ギャップという言葉はあまり使われないが、実際、小学校から中学校に進学する際の変化に適応できないという事象も存在する。</p> <p>小中一貫教育基本方針を踏まえ、こうした課題点に対する取組を検討していきたい。</p>
14	11.21(日)	天神山	発言者F	<p>教育長が「岸和田市の学力レベルが低い」と言っていたと思う。だから小中一貫校にするようなことも言われたように思う。</p> <p>現役の非常勤講師として、まだ学校で勤めており、校長と話す機会もある。校長と話をした際に、この内容をどう思うか尋ねたところ、「小中一貫校にしても成績は上がらない、一番良いのは少人数学級だ」と言っていた。どの校長も口をそろえてそう話す。</p> <p>この取組に着手する前に、まずは少人数学級に取り組むべきではないか。国が国がと言うが、国がいつ少人数学級を実施するのかという気持ちである。</p> <p>また、孫が今小学2年生と4年生。今後の少人数学級化から外れてしまう。加えて、学年の人数が2クラスになるか、3クラスになるか、という人数であり、毎年ドキドキしている。やはり3クラスで、学級あたりの人数が少ない中で、目の行き届く指導を受けたい。ぜひ岸和田市において独自の少人数学級を取り入れるべき。</p>	<p>学力向上は小中一貫校の設置や、小中一貫教育の実施だけで解決するものではなく、様々な面から取り組む必要がある。</p> <p>教員の授業改善や、今年度から取り入れた、認知機能を高めるための「コグトレ(Cognitive Training)」という取組を進めており、それらに加え、小中一貫教育も有効な取組の一つだと考えている。</p> <p>学力向上のために、小中一貫の取組だけが唯一絶対の方式だとは申し上げていない。総合的に展開すべきことである。</p> <p>少人数学級については、実現していくべきことだと認識しているので、国や府への要望を行っている。</p> <p>ただし、自治体ごとの経済力によって、学級編制基準にバラつきがあつていいのか、という点については疑問。</p> <p>経済的に豊かな自治体でも、そうでない自治体でも、公の義務教育では等しく教育機会を提供し、教育内容を保障しなければならない。</p> <p>経済的に豊かな自治体では、35人学級を下回る、独自の少人数学級も可能だとは思いますが、そうでない自治体は35人のままというのが、公教育としてよいのか。国が、国の責任において必要な教員を配置し、学級規模を少人数化していくことが必要であると考えているので、市独自の国基準を下回る少人数学級化を進める考えはない。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
15	11.21(日)	天神山	発言者F	<p>35人学級と言うが、実態は40人を超える学級もある。支援学級の児童が学級編制上の人数に入っていないからである。</p> <p>支援学級の児童も学級編制上の人数に含める、ダブルカウントも考えてほしい。</p>	<p>支援学級の児童生徒が、通常学級に戻って共に学ぶ際に、1学級あたりの人数が40人を超えることについては、教育委員会としても大きな課題として認識している。</p> <p>スペースに限りがある中、教育環境としても好ましくないため、昨年度も市に対して解消に向けた予算要求を実施した。今後も要求を継続していく。</p>
16	11.21(日)	天神山	発言者F	<p>校長に、校長会で、この岸和田市を挙げた大事な問題が話に出ているのか、と尋ねたところ、出ていないと言っていたが、本当か。校長にしっかり話をすべきだと思う。</p> <p>また、こうした問題には校長の立場から意見を言えないとも聞く。校長会で教育長から話があった段階で、討議があるものと思っていたのに、一方的に聞いて終わりのようなので、思い違いだったようだ。</p>	<p>毎月開催される小学校・幼稚園の校園長会、中学校の校長会には必ず教育長が出席し、ざっくばらんに意見交換をできるような雰囲気づくりに努めており、また普段から、指導主事が学校を訪問し、学校での困りごとや意見を伺っているが、校長からそのような発言があったとすれば、マネジメント不足の致すところであるので、今後も心して取り組んでいきたい。</p> <p>一方、校長にも、今回の取組に関する意見があれば、積極的に聞かせてほしいと伝えてきた。今後も留意していく。</p>
17	11.21(日)	天神山	発言者F	<p>今回の説明では、小規模校は悪い、としか聞かえない。</p> <p>小中一貫校におけるメリットは述べられているが、デメリットの記述がない。この取組によるデメリットの方がメリットより多いと思う。聞かせてほしい。</p>	<p>適正規模・適正配置の取組における課題点として、小学校が閉校になれば、児童にとって、これまでよりも通学距離が遠くなるのが1点挙げられる。これに関しては、必要に応じてスクールバスを導入すべきと考えている。</p> <p>また、地域コミュニティにも配慮が必要になると考えている。小学校が閉校となることで、合わせてこれまで小学校区で培ってきた地域コミュニティを崩していくということではなく、新しい学校区を単位に地域コミュニティが形成されるのか、あるいは旧小学校区のコミュニティを維持していくのか、ということについては、地域で主体性をもって判断していただくことになると想定している。</p> <p>その点においても、市からのサポートに努めていく。</p>
18	11.21(日)	天神山	発言者G	<p>葛城中学校に、特認校をつくるというが、中身を見ていると、一部のエリートを育てるために、岸和田市各地から優秀な児童生徒を集めるように見え、これは教育に差別を持ち込む考え方だと思うが、いかがか。</p>	<p>特認校という制度は、エリート教育ということではなく、特色ある教育を導入することで、例えば地域における田植え活動に児童生徒が参加し、体験学習を実施するといったことや、小学校低学年からの英語教育を実施するといったことである。</p> <p>地域の皆様のご協力を得ながら、地域ごとの特色ある教育を実施していくというものである。</p>
19	11.21(日)	天神山	発言者H	<p>小規模校のことを、市も、教育委員会も、悪いとは思っていないという認識でよいか。</p>	<p>課題はある、と捉えている。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
20	11.21(日)	天神山	発言者H	<p>課題があるのであれば、それを解決していくことが市や教育委員会の役目ではないかと考える。子どもの教育に影響を与える、廃校ということはとんでもないことだと思う。</p> <p>毎年、学校評価アンケートを実施しているが、内容を読んでいるのか。適正化対象校として挙げられた学校で、保護者が学校をどのように思っているのか、確認した上での提案なのか。</p> <p>令和2年度の天神山小学校の学校評価アンケートを読ませてもらう。昨年、コロナウィルスの影響で社会不安が広がった中での内容である。</p> <p>「子どもはいつも明るい表情で、いつも楽しそうにしている。担任の先生はもちろん、学校全体で一人の子どもに関わっていただいているのがとてもありがたい」</p> <p>「コロナで大変だったと思うが、思った以上に行事等ができて感謝。小規模校の良さですね。ホームページでの情報発信の多さにも驚く。担任だけでなく、すべての教員が子どものことを知ってくれてうれしい。安心できる。チビッコホームや、"てんてん"天神山教室との連携もあって、それも驚いた。いろいろな活動が中止になる中、それでもできることを活動していただき、本当に感謝。先が見えないこの事態であるので不安はあるが、こんなときだからこそできること、こんなときから協力しあえる心を培っていかねければと思う。身体と身体は離れても、心と心はつながられるよう願っている」</p> <p>「我が子の手荒れがひどいので、手指の消毒ができない旨を相談したとき、すぐ学校中の先生、子どもたちに周知・対応してくれたこと、すごく助かり、嬉しかった。音楽会もしっかり感染対策をしながら開催されて、すごく良かった」</p> <p>このように、ありがたいという声がたくさんある。PTA行事に関しても、こんなに協力してもらって申し訳ないと思うぐらい、教員の協力が得られた、という声もある。</p> <p>こんなに良く思われている学校を、なぜ廃校にしなければならないのか。地域や保護者の声を聴いていない、ひどい計画だと思う。</p>	<p>学校評価アンケートについて、小規模校としてのメリットを地域や保護者の皆様にご理解いただき、評価していただいたものだと思う。教育委員会としても、挙げられたような内容はメリットとして認識しているところ。</p> <p>しかしながら、これからは地域の中だけで生活する時代、岸和田市内の経済だけで一人の人間が生きていく時代ではない。それは日本国内だけでなく、世界の中で、世界の人々とともに、様々な意見の中で、最善の答えを見出していくということが必要であり、そのような背景を踏まえ、国においても「主体的・対話的で深い学び」というものを提唱しているのだと解している。</p> <p>そうした方向での力をつけていく上では、やはり一定の集団規模を確保し、互いを高めあう教育が重要であると認識している。そのために、適正規模・適正配置の取組は必要不可欠であると考えている。</p> <p>それぞれの立場、学校との関係、地域との関係がある中で意見が分かれることは当然のこと。それは誰も間違っていない、皆が正しいと思われる中で、互いの意見交換を経て、より良い案をまとめていきたい。最終的には、市全体で、何が一番正しいかということについて判断をしていく必要がある。</p> <p>地域や保護者の皆様と十分に意見交換を実施した上で、市長と、教育を預かる教育長で案を固め、市議会に提案していきたい。</p>
21	11.21(日)	天神山	発言者H	<p>特認校について、東葛城小学校だからこそ、特色ある教育が可能なのであって、（仮称）葛城小中一貫校において、これまでのような特認校制度が可能なのか。</p> <p>天神山町や土生町から現在特認校制度を利用し、東葛城小学校に通学している方がいる。その理由をきちんと受け止めているのか。（仮称）葛城小中一貫校ではそれはできないと思う。</p> <p>小規模校が残せないのなら、天神山小学校も特色のある特認校にしてほしいと思う。</p> <p>コミュニティを守るというが、学校がなくなればコミュニティも壊れる。市として援助していくというが、約束できるようなことではない。この計画（案）はまち壊してはいいか。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
22	11.21(日)	天神山	発言者I	<p>天神山小学校で子ども教室を実施している。今年で9年目になる。</p> <p>天神山小学校は、市内で唯一トンネルを通して安全に通学できる。トイレの改修も実施したほか、特別教室を含み、エアコンも設置した。</p> <p>小規模校といわれる中で、小規模だとダメなのか、と思い、授業参観に伺った。6年生がパソコンを使用し、修学旅行のまとめを一生懸命発表していた。</p> <p>小規模校だからこそ育まれるものがあるし、小中連携教育も実施できている。英語教育も教員が一生懸命面白い授業に取り組んでいる。小規模校の方が、発表の機会も増える。何かを発表するということは、これから子どもたちが中学校、高校、大学と進む上で非常に大切だと思う。</p>	<p>通学について、市内のどの学校でも、子どもたちの安心安全を確保するため、地域の皆様のご意見を伺いながら、あらゆる手立てを講じる必要があると考えている。</p> <p>小規模校のメリットと課題については、認識している。教育委員会では一定の集団規模を確保することが重要と考えており、例えば発表の場面においても、その中で多様な考えに触れる機会が、より増加すると考えている。</p>
23	11.21(日)	天神山	発言者I	<p>現在の中学生の体格が大きいことを知っているのか。</p> <p>孫は身長172cmあり、とても大きいと思っていたが、運動会を見に行ったら、背の順で真ん中より少し後ろというくらい。同級生には180cmを超える身長の子もいる。</p> <p>そんな中学生と、身体の小さな、小学校低学年の児童がともに学ぶことができるのか。</p>	<p>施設一体型小中一貫校では、小学生と中学生が同じ学び舎で過ごすことになる。先進事例も参考にしながら、必要な対応を行っていく。</p> <p>例えば、階段の仕様について、低学年児童向けに統一したり、運動場の使用について、低学年児童と中学生が、互いに危険のないような運用等、方策を講じていく。</p>
24	11.21(日)	天神山	発言者E	<p>要望だが、地域によっては、こういった計画（案）が出ていることを知らない人が多い状況。</p> <p>広報きしわだにおいても、適正化計画、とあるだけで、内容をわかっていない方が多いので、市の責任として、取組内容を全市的に知らせてほしい。市全体の問題であると考えべき。</p>	<p>【ご意見として承る】</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
25	11.21(日)	天神山	発言者J	<p>学校の規模が小さいから統合していくということが題目になっているが、特にヨーロッパでは非常に小さい規模の学校をめざしている。おおよそ100～200人程度の学校規模である。</p> <p>この程度の規模は、教員全員が児童生徒全員の顔と名前を認識できる範囲の規模。これ以上になると、全員を覚えることは難しい。</p> <p>フィンランドでは莫大なお金を使い、平均的な学校規模を100人程度にしようとしている。また教員の質を高めるため、大学院を出た教員を確保することもしている。</p> <p>小規模校は教員全員が児童生徒全員を見ていける、大事な環境である。それを簡単に放棄してほしくない。</p> <p>不登校やいじめといった問題が全国的に増えている。それは大規模校で起こっている率が多い。そこで学校へ行けなくなった子どもたちが、小規模校に転校することで、再び学校へ通学できるようになるといった例も多い。そういった救済の役目も持っている小規模校は、岸和田市にとっても宝。</p> <p>教育政策が先行している明石市では、文科省が35人学級化を発表する前から独自の35人学級を実施していた。児童生徒にも様々な援助をし、市も、子育てするなら明石市という宣伝をしていたが、今や不動産会社が、明石市は子育てしやすいということを宣伝するようになった。転入超過になり、財源も増えたということである。そういったことも考えてほしい。</p> <p>子どもの数が減っているのは事実なので、実際は子どもの取り合いのような状況であり、どの自治体も様々な工夫をしている。今の岸和田市のやり方では、むしろ転出が増える。</p> <p>大規模校で学力が上がるとい研究はない。小規模で、わからないところを一つひとつ理解できるよう、丁寧に指導することが大切。テストを増やしても意味がない。</p> <p>そういった愚直なやり方が、学力向上における最大の手法だと考える。岸和田市の宝である、落ち着いた学校を大きな学校に統合してしまうという考え方は間違っていると思う。</p>	<p>フィンランドの例を挙げられ、諸外国では小規模校の流れができていないのではないか、ということであったが、北欧諸国は高福祉高負担の国であり、税率が非常に高い代わりに公共施設を無料にするといった政策をとっているところである。国の考えとして、小規模化を進めているものと捉えている。</p> <p>先ほど宮古島と石垣島の例もあったが、学校のあり方を考えるときには、例えば人口密度や、学校の配置状況、地理的条件、あるいは人口構成要件等を踏まえるべきである。</p> <p>例えば、離島の中に1校だけ学校がある場合、その学校がなくなると、子どもたちが親元を離れて寮住まいする必要も生じてくるため、容易に学校の統合はできないということで、小規模での教育を進めているのではないかと推測される。</p> <p>岸和田市は岸和田市の人口状況や学校の配置状況を踏まえて考えていく必要がある。</p> <p>国の教育方針のあり方について、日本では文科省が手引きをもとに、適正規模・適正配置の考え方を示しており、公教育である以上、岸和田市も国の方針に則って、物事を判断していくべきと考えている。</p> <p>明石市の例については、先ほど申し上げたとおり、個々の自治体で学級規模の少人数化を進めていくことは好ましくなく、国の基準のもとに、しっかりと少人数学級を導入していくことが必要と考えている。</p>
26	11.21(日)	天神山	発言者B	<p>教育長は、市独自での少人数学級導入に慎重な旨を述べるが、これは教育長個人の意見であって5名の教育委員の意見が反映されたものではないのではないか。</p> <p>岸和田市は、独自での25～35人学級を導入しないという考えに変わったのか。</p>	<p>教育委員の皆様とは、月に1回開催される定例教育委員会において、また日常的にも意見交換を行っており、少人数学級についての考え方についても賛同をいただいている。</p> <p>説明の中で、「私」という言葉を使ったが、個人の立場ではなく、教育行政を預かる教育長の立場で説明会に出席しているため、個人的な見解ではないということをご理解願う。</p>

番号	日付	校区	発言者	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
27	11.21(日)	天神山	発言者B	<p>以前の資料では、天神山小学校の児童数推計は令和8年の113人を最低とし、令和13年にかけて132人に増えることがあったが、本日の資料をみると、ぐっと減ることになっている。なぜか。</p>	<p>令和8年度から令和13年度にかけて微増する推計は、令和2年度時点での推計値である。令和10年度以降の児童数推計が、昨年度作成のものより大きく減少している理由は、令和元年度における天神山校区内の出生数が23であったことに対し、令和2年度では12と急減しているからである。</p> <p>この推計は、各校区に在住する0歳児から小学生が、転居をせず、その校区で年齢を重ねると仮定したものであり、例えば令和3年度時点の推計は、令和2年度に出生した0歳児が小学校1年生になる令和9年度までは、校区に実在する未就学児の人口を順に当てはめたもの。令和10年度以降は、直近における校区ごとの出生率を当てはめて算出した推計である。</p> <p>要するに、その年に出生した赤ちゃんが小学1年生となる7年後の推計までは、校区外の転出入がない限り、ある程度実数に近い推計値となるが、8年後以降の推計については、小学校1年生が現時点で出生していない児童数を見込むことになるため、その算出方法として、直近の出生数を参酌している。よって、直近の出生数が極端に減少した場合、以降の推計に大きく影響が生じるということである。</p>
28	11.21(日)	天神山	発言者B	<p>岸和田市は100周年記念事業として、「泉州山手 未来への懸け橋プロジェクト」というものに取り組んでおり、まちづくり推進部市街地整備課の資料によれば、山直北地区と光明地区の事業計画に着手している。また貝塚市では約2kmの道路事業に着手している。泉州山手線は9.5kmだが、岸和田市と貝塚市を合わせて約5km弱、残りは熊取町の約3km、修斉・天神山地区の2km余り。いつ着手になるかは不明だが、岸和田市は全部やると考えているようだ。事業主体は大阪府だが。</p> <p>平成28年12月策定の泉州山手線沿道のまちづくりの方針で、市街地整備課は、天神山地区、太田地区、修斉地区の目標を記載しており、水道みちより山手側を天神山地区としており、「天神山団地等の周辺の良い住環境に最大限配慮した幹線道路沿道の環境づくりを進めます」と具体的に記載がある。8割程度は農業やみどりの保全地区とされているが、残る2割は何も書いていない。</p> <p>まだ具体的に決まっていないということは、住宅地になる可能性もある。実際に岸の丘町では現在61世帯が住んでいる。市の適正化計画（案）には岸の丘町の児童について具体的な数字は書いていないが、かなり増えていると聞く。20～30人は増えているのではないか。既に1年目で児童数の推計プランが破綻している。</p> <p>山直南小学校は、このままいけば10年間くらいは全学年2学級になるような状況。天神山ではまだわからないが、泉州山手線が延伸すれば、面積を考えると100～200戸程度の住宅が建つと考える。</p> <p>まちができて10年くらいは児童数が急増する。天神山小学校もそうだった。学年あたり4クラスの時期もあった。住宅が増加すると、天神山小学校も一時的に全学年2学級になる。30年後はまた減少すると思うが。</p> <p>10～20年後には天神山校区において児童数が急増すると市のプランで決まっているのに、なぜ今廃校するのか。また減少した段階で考えればよい。40年後か50年後かわからないが。</p> <p>なぜ市街地整備課は人口が増加すると知っているのに、教育委員会は調整をしていないのか。しっかりと住宅増加について調整しているのか。</p>	<p>岸の丘町において児童生徒数が増えるため、適正化は必要ないのでは、という点について、確かに丘陵地区のまちづくりが進み、住宅が建ち並ぶ中で、一時的には児童生徒数が増加する見込みだが、数年後には再び減少していくと見込んでいる。</p> <p>現在の実施計画（案）の中では、岸の丘町の実数値は入っていないが、現在、山直南小学校も小規模化する中で、適正化の対象校となっている。</p> <p>市街地整備課をはじめ、庁内関係課との調整について、実施計画（案）を策定するにあたり、様々な部局と協議を重ねており、今後も適宜協議・調整を行っていく。</p>